

# 衛生指導（カンボジア）

## 駐在員レポート

2013年度は、国際ボランティア貯金の助成金により、プレイベン州、カンダール州の8校で、生徒に対する衛生教育及びトイレ・給水施設の建設を行いました。

### ①建設前ワークショップ(2013年5月9、10日)【写真A】

建設支援を行う5校にて、教員及び生徒、学校支援委員会メンバー、村民、州と郡の教育局スタッフを集めて実施。その際、各学校に衛生教本を配布した。

「清掃と建物の修理の重要性を確認した。周りの人々に知識を伝えていきたい。学校にトイレがないことは、とても辛い。女子生徒は近くの知り合い、親戚の家のトイレを使わせてもらいます。」  
(プレイトン中学校3年女子)

「学校にトイレが無いことは、生徒に悪いことをしていると認識している。学校支援委員会はこれまでも簡単な修理はしてきた。予算は村民から集めている。学年末に生徒の親から寄付金を集め、箱に貯金しているが、村民は貧しいので、あまり貯まらない。」  
(プレイトン中学校村民、77歳男性)

### ②トイレ、給水施設の建設(2013年5～9月)【写真B】

対象校8校のうち5校に、トイレ(6棟30室)・給水施設(5基)を建設。

### ③ワークショップ前調査(2013年9月)【写真C】

専門家によるワークショップ実施の前提となる情報を得るために、対象校8校でアンケートを実施。

### ④第1回目トレーニング(2013年10月7日～16日)【写真D】

JHPローカルスタッフ4名が専門家工藤英美子氏の指導を受け、衛生に関する理解を深め、TOT(Training of Trainers:指導者研修)という手法を用いて指導ができるようになった。

### ⑤第1回ワークショップ(2013年10月)【写真E】

ローカルスタッフが中心となり、生徒代表と教員へのワークショップを実施。参加者は、衛生教育およびトイレ利用についての重要性を理解し、校舎およびトイレ清掃を含めた管理体制を自ら構築した。

### ⑥中間モニタリング(2013年12月～2014年1月)

トイレ建設支援を行った5校を対象にモニタリングとインタビューを実施。

### ⑦第2回トレーニング(2014年1月27日～2月5日)【写真F】

以下の点に重点を置き、工藤専門家のトレーニング、ワークショップ開催準備が行われた。

- ・モニタリング方法についての再検討
- ・生徒から他の生徒へのトレーニング方法の確立
- ・学校内で広げるためのツールづくり

### ⑧第2回ワークショップ、学校観察(2014年2～3月)【写真G】

学校内で、生徒が中心となり衛生環境の維持管理ができるようになるための指導方法、テクニックを紹介。グループワークでは、清掃基準づくりが行われた。

「生徒の知識が向上し、トイレ利用率は高くなっています。今回得た知識は、学校内だけでなく、生徒が住むほかの住民、また彼らの次の世代へも引き継がれる大変重要な知識です。」

(スレイモンコル中学校校長)

「各学校の生徒会組織を有効活用する手法は大変有意義であり、生徒と教員の関係や信頼の向上にもつながると思います。生徒代表らに必要な役割や知識・責任が身についたと確信します。同郡内すべての学校にも同様のワークショップを開催いただきたい。」

(コンポントラバイ郡教育局副局長)

「他の生徒へ伝える技術向上に役立つ有意義なトレーニングでした。本日参加した生徒によるワークショップをローカルライフスキル(\*)の時間に行う予定です。」(プロティエット中学校校長)

\*ローカルライフスキル(LLS:Local Life Skill)

大体毎週木曜日に実施されている授業。内容は多岐にわたり、農業や芸術、交通安全や衛生教育等。学校により選択する内容が異なる授業時間であり、時間も異なる。



# 学校建設（ネパール）

## プロジェクトの背景

2009年度より、事業方針として掲げていたカンボジア以外の支援国の検討を開始し調査を進めたところ、ネパールの公立学校の教育環境がカンボジアと同等に劣悪であることが分かった。2010年度の調査により支援対象地域と候補校を具体的に絞り込み、当会がカンボジアで培った建設ノウハウを設計図や資材に反映させながら慎重に準備を進め、現地のガナジャム・メモリアル財団と連携を図りながら2011年12月に2棟を着工し、2013年1月と3月に贈呈式を行った。更に同年10月に2棟を贈呈し実績は4棟となった。

## ネパール校舎4棟まで贈呈完了。 新たに着工進む。



シンガデビ学校贈呈式の様子



ラクスミー学校贈呈式での体操披露



2階増設中のラクスミー学校



サラソティ学校既存校舎の授業風景



建設が開始されたゴダマラ学校

## 支援概況

ネパール支援は、これまで2階建て8教室1棟、平屋建て2教室1棟、平屋建て4教室2棟、合計4棟18教室が完成しました。

2013年度は、10月25日にシンガデビ学校、10月27日にラクスミー学校の贈呈式を実施。それぞれ日本から支援者が出席され、盛大な贈呈式が行われました。(写真A、B)

シンガデビ学校は、地域と学校が協力して生徒数を増やしており、学校運営がしっかりしている点が評価され建設に至りました。また、ラクスミー学校も現地のグプタ校長の熱心な学校運営が成功し、10年制から12年制へ移行することになりましたが、教室不足が益々深刻になってきました。壁は、校長先生の希望で青空のようなブルーになりました。

2014年に入り、対象地域となるジャバ郡で、10月に贈呈したラクスミー学校2階部分への4教室増設(写真C)、校舎の建て替えが必要なサラソティ学校1棟2教室(写真D)、ゴダマラ学校1棟3教室(写真E)の支援を決定しました。2014年3月には



既建設校のモニタリング、建設中校舎の進捗状況のチェックを行いました。(写真F)

円安やインフレの影響で建設コストが上がりつつありますが、鉄筋コンクリートと煉瓦を組み合わせた強固な校舎を建設し、今後もネパールの子どものための教育環境の整備を進めていきます。



シンガデビ学校授業風景